



*花々 (LES FLEURS)



4月5日の復活祭 (les Pâques) の頃は春らしく晴れた天気、気温も季節並みに日中で12℃前後だったのですが、9日辺りから急に温度が上がり出し、22℃、23℃、月の中旬には25℃に達し、15日は27℃を記録、暑くなりました。そんな天気が25日頃まで続きましたから、植物だって黙ってはいません、慌てて花という花が一斉に咲いてしまい、去年は開花が遅かったので今年は“花見”の日を遅く予定していたこちらが慌てました。5月1日の“スズラン祭り” (Fête du muguet) は生憎の小雨、日本からゴールデン・ウィークを利用してやって来た友人達の中に“雨女”か“雨男”が居たに違いありません。杏 (l'abricot)、マグノリア (le magnolia)、紫がかったピンクの綺麗な花蘇芳 (何度もフランス人にその名前を尋ねましたが、皆が違うことを云うので、フランス語の名前は知らないままです)、そしてマロニエ (le marronnier) やリラ (le lilas) も咲きました、いえ、咲いてしまいました。藤の花 (la glycine) も去年より沢山に咲いたような気がします。続いて紫色に煙るような桐の花 (le paulownia)、線路際や高速道路脇の土手に多いニセアカシア (le robinier) のクリーム色の花が新緑に映え、そう云う間に菩提樹 (le tilleul) の特徴ある花が咲き始めています。間もなく大気がほんのりとその香りを伝えてくれることでしょう。“藤”と云えば、足利市のフラワー・パークの藤棚の見事な花房は、こちらの新聞・雑誌にも写真入で紹介されました。曰く「“藤の雲海”：壮麗な樹齢150年の大木、高さが5mの棚に咲く藤の花が1000㎡の天空を彩っています。是非日本へ鑑賞に行きましょう。そして中華街のある店にこう書いてありました：「花開富貴・花玉春爛」

*ローラン・ガロス (ROLAND GARROS)



ブローニュの森の一角、緑に囲まれた国際オープン・テニス場“ローラン・ガロス”では今月24日から6月7日迄の2週間、恒例の国際トーナメントが22面のコートで繰り広げられています。フランスへデビス・カップを招く為に1928年に作られたこのテニス場では、当時“フランス四銃士”(les Mousquetaires)と呼ばれたアンリ・コシェ

(Henri Cochet)、ルネ・ラコステ(René Lacoste)、ジャン・ボロトラ(Jean Borotra)、ジャック・ブリュニオン(Jacques Brugnon)といった選手が活躍、中でもルネ・ラコステは1925年より全仏、全英、全米それぞれのシングルスに優勝、“ワニ”の様にボールに食いつき、相手をねじ伏せることから“ワニ”(le crocodile)とあだ名され、引退後は“ワニ”のマークでスポーツ・ウエアを売り出したことで知られています。テニス場の名前になっている“ローラン・ガロス”(1888-1918)は、始めはピアニストを目指し、1906年頃からスポーツに転身、自転車レースで優勝するなど各方面で活躍、1910年には飛行機の操縦に熱を上げ、高度記録を3度樹立、1913年には初の地中海横断飛行を成し遂げ、空軍時代は射撃にも長け、ドイツ軍から要注意人物にリストされる程でした。この万能選手を讃えてこのテニス場に“ローラン・ガロス”の名を残したものです。メイン・コートに付けられたシュザンヌ・ラングラン(Suzanne Lengren)は1920年代に活躍した女子チャンピオンで、初めてショート・スカート姿で試合に出場、大きな話題を呼んだ人で、市電T2号線の駅名にもあります。

オリンピックでもそうですが、日本が出場していても、こちらのテレビには決して映ることがありません。だからと云う訳ではありませんが、ついフランスを応援したりします。フランス代表のガスケ(Gasquet)、モンフィス(Monfils)、ツォンガ(Tsonga)、シモン(Simon)達の活躍はどうでしょうか。優勝カップは 宝石商が軒を連ねるパリのRue de la Paixにある老舗“メレリオ”(Mellerio dits Meller)で作られ、先述“四銃士”の杯《Coupe des Mousquetaires》と彫られて、オリジナルはフランス・テニス連盟(la Fédération française de tennis)に保管され、毎年銀杯で重さ2キロ、高さ21cm、直径19cmのレプリカが作られ、優勝者の名前を台座に彫って授与されています。



* “エルミオーヌ” 大西洋横断

(LA TRAVERSEE DE L'ATLANTIQUE DE « L'HERMIONE »)



英国の重圧に苦しむコロン達を支持してアメリカの独立戦争に参戦すべく、フランス王ルイ 16 世の命を受けたラファイエット 将 軍 (La Fayette(1757-1834))が、1780 年に大西洋を渡っ

た時の戦艦 “エルミオーヌ” (英語読みでは “ハーマイオーネ” のようです) と全く同じ船を造って、同じコースを航海しよう、と云う計画が生まれたのが 1990 年後半のこと。パリから約 470 km のロシュフォールにある造船所では、フランス全土から檣の木材 1400m³ と鉄材 4 トンを集め、当時の工法のままに製造を開始、近くの縄工場で長さ 26km に及ぶ縄、2200m 四方もの帆布を作り、全長 44, 27m、幅 11, 27m の木造船が、当初 10 年の予定が遅れ、今年の 2 月に進水、完成して、4 月 18 日シャラント河口のエックス島 (l' île d' Aix) から 80 名の船員 (プロの船員 20 名、ボランティア 60 名、その中 1/3 は女性、、、) を載せて出帆しました。

現在その美しい姿で正に大西洋横断中、予定では 6 月 5 日ヴァージニア州ヨークタウンへ着き、その後 7 月 4 日アメリカ独立記念日 (Fête de l' indépendance des Etats-Unis) にニューヨークに到着、沢山の船にエスコートされ、米仏友好を祝うことになっています。(Des centaines de bateaux escorteront l' Hermione dans la baie new-yorkaise, afin de célébrer l' amitié franco-américaine)

*夏期安全対策 (DES MESURES DE LA SECURITE PENDANT L' ETE)

観光都市パリ、世界一美しい都パリ、、、しかし世界で一番危険な町パリ、、、警視庁ではこの 6 月 1 日より夏期安全対策を実施、観光客が最も多いシャンゼリゼ通り、ルーブル美術館とその周辺、デパート街、エッフェル塔、モンマルトルの丘、ノートルダム大聖堂、等を中心に 26000 人の警官を動員して警戒にあたる、と発表しました。テロ行為に対しては兵士 3 人 1 組となって警戒する姿を空港、駅、街角などで見かけますが、観光客を狙うスリやヒッタクリといった被害が甚大であることから、警察官によるパトロールの強化が打ち出されたものです。(Afin d' assurer la sécurité des touristes et d' éviter les vols à la tire, les vols à l' arraché, 26000 policiers seront déployés dans une dizaine de sites touristiques de la capitale, comme les Champs-Elysées, le quartier du Louvre, aux alentours des grands magasin,,,,,,) “今頃になって、、、” といった声も聞こえないではありませんが、被害届 (déposer plainte) もわざわざ警察署まで行かなくても、デパート等でも受け付けるよう便宜を図っています。しかし “自分自身でしっかりすること” が一番大切なことと思います。その上で大いに観光を楽しみましょう。

2015 年 4 月 14 日 Saint Maxime 日の出 07 時 02 ・日の入 20 時 40 天気：パリ朝夕 11℃/日中 25℃晴天、ニース：11/17℃晴天、ストラスブール：6/22℃晴天、l' été prend de l' avance : 早くも夏の到来？ボルドー、リモージュ、リヨン、、、各地の気温が 25℃を超えています。(菅)